

ある精肉店のはなし



いのちを食べて
いのちは生きる

ほりのしま
『祝の島』につづく
はなぶさ
額瀨あや監督作第二弾

プロデューサー:本橋成一 製作:やしほ映画社、ポレポレタイムス社



釜山国際映画祭
ワイドアングル部門
正式出品作品



山形県等トキョメントリー映画祭
日本プログラム部門
正式出品作品

文化庁映画賞 文化記録映画大賞受賞
第5回辻替雄食文化賞受賞



助成:文化芸術振興費補助金

牛の飼育から屠畜解体まで、
いのちが輝いている、
前代未聞の優しいドキュメンタリー。

鎌田 慧 (ルポライター)

「生」の本質を見つけてきた家族の記録。

いのちを食べて人は生きる。
北出精肉店も新たな日々を重ねていく。

最後の屠畜を終え、
102年の歴史に幕を下ろした。

2012年3月。
日々使用してきた屠畜場が、

地域や家族も変わっていった。
いつしか自分たちの意識も変化し、
部落解放運動に参加するなかで

差別のない社会にしたいと、
地域の仲間とともに

被差別部落ゆえの
いわれなき差別を受けてきた父の姿。

家では、家族4世代が食卓に集い、いつもにぎやかだ。
家業を継ぎ7代目となる兄弟の心にあるのは

皮は丹念になめされ、
立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。

丁寧に切り分けられ、店頭に並ぶ。

牛と人の体温が混ざり合う屠場は、熱気に満ちていた。

大阪貝塚市での屠畜見学会。
牛のいのちと全身全霊で向き合う
ある精肉店との出会いから、この映画は始まった。



北出さん家族と一緒にいるときも、
地域にいるときも、私は大きな安心感
に包まれていた。生まれ出た場所で、
自分が自分として生きること。それを
考え抜き、生き抜いてきた彼らは、
しなやかでありながら揺るぎなく、
そして果てしなく慈愛に満ちていた。

監督：額嶺あや

原作：額嶺あや プロデューサー：木橋成一

撮影：大久保千津奈 録音：畑山直彦 美術：梶川洋一 ウェットデザイン・整音：江夏正晃 (maimo RECORDS) 音楽：佐久間順平 宣伝：西岡里佳 製作デスク：中植きさら
製作統括：大槻貞夫 グラフィックデザイン：大橋祐介 協力：映画「ある精肉店のはなし」を応援する会 製作：やしほ映画社、ホレホレタイムス社

2013年/日本/108分 『ある精肉店のはなし』公式ホームページ：<http://www.seinikuten-eiga.com/>

映画で学ぶ人権 ～城南区ヒューマンライツシアター～

とき 令和元年10月1日(火) 14:30～16:30 入場無料
ところ 福岡市城南市民センター ホール 事前申込み不要

問合せ：城南区役所生涯学習推進課 TEL:092-833-4044 メール:gakushu.JW0@city.fukuoka.lg.jp